

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第10号】2012年6月22日発行

【立命館拠点後方支援プロジェクト】

レポート 後方支援スタッフ派遣

第7～9便：宮古市で活動

立命館災害復興支援室が企画・運行する「後方支援スタッフ」（ボランティアバス）が2012年度も引き続き東北の被災地に向かい活動を行っています。7便から9便は、岩手県宮古市での活動を行いました。

これまでの派遣概要 *期間/学生人数
<2011年度>

第1便 12/21(水) - 12/27(火) 5名
第2便 12/28(水) - 1/2(月) 13名
第3便 2/5(日) - 2/10(金) 15名
第4便 2/19(日) - 2/24(金) 12名
第5便 3/1(木) - 3/6(火) 13名
第6便 3/22(木) - 3/27(火) 12名
<2012年度>

第7便 5/2(水) - 5/7(月) 13名
第8便 5/17(木) - 5/22(火) 11名
第9便 6/14(木) - 6/19(火) 14名

PICK UP: 第7便での活動の様子
<宮古市にやってくる市民ボランティアのためのマップ作成を実施>

活動初日となった5/3(木・祝)大雨のため屋外での活動が中止となったことを受け、急きょ「ボランティアで宮古市に来られた方々に、もっと宮古の魅力を知ってもらいたい」という宮古市災害ボランティアセンターの方々の想いを踏まえ、マップ作成に取り組むことに。メンバーは市内の「グルメ」「観光」「買い物」に関するスポットを訪問しお勤めスポットをマップに記載、現地滞在の最終日に宮古市災害ボランティアセンターの皆さんに模造紙に仕上げたマップのプレゼンを行いました。マップはボランティアセンターの「ボランティア詰め所」に掲示し活用されています。



完成したマップを紹介する学生たち

PICK UP: 第8便での活動の様子

<宮古市田老地区が津波被害から復興するための提案を検討>

5/18(金)、宮古市への後方支援スタッフ派遣で毎回お世話になっている宮古市田老地区の津波被害の説明会の場で、学生スタッフの「関西に住む学生に期待することはありますか?」との質問に対し「大学生ならではの、田老のまち復興のためのアイデアをぜひ提案してほしい」とのコメントを頂きました。

説明会后、学生たちは宿舎で田老の復興のためのアイデアを出し合い、3時間以上話し合いを行いました。関西に戻った後、提案内容をより丁寧にまとめた上で、改めて田老の方々へ報告するための準備に取り組んでいます。



PICK UP: 第9便での活動の様子

<金浜海岸での清掃活動>

6/16(日)に実施した宮古市金浜海岸での清掃では、津波の影響で打ち上げられたゴミや大量の貝殻を集め分別する作業に取り組みました。

活動をした海岸はもともと、潮干狩りやカキの養殖も営まれる豊かな海でした。学生たちは自治体や企業からのボランティア、一般の個人ボランティアの方々と一緒になって作業を実施しましたが、表面上はきれいに見えても、少し掘り起こせば拾いきれていない状況で、まだまだボランティアの必要性を感じました。



後方支援スタッフ派遣 第10便は6/28(木) - 7/3(火)の日程で実施します。

参加した学生のコメント

地震や津波の被害についてニュースなどでは見ていましたが、実際にその現場に立ち、その力の凄さを改めて理解しました。また「遠くからボランティアに行くことは、はたして意味があるのか。私たちのような活動は必要なのか。」という疑問を前から抱いていたのですが、その思いが解決しました。現地の方に言われた「県外の人の力はとても刺激になる。」という言葉から、「県外だからこそ、学生だからこそ、京都だからこそできるボランティア」を考えていく必要があると気づきました。

<産業社会学部 3回>

6/9 - 11 災害復興支援室

岩手県を訪問

去る6/9(土)から6/11(月)にかけて、災害復興支援室 服部健二室長、上田寛副室長をはじめとしたメンバーが校務と復興支援に関り岩手県の関係各所に表敬訪問に伺い、今後の取り組みについても意見交換を行いました。

<訪問先>

- ・宮古市重茂半島千鶏地区仮設住宅
- ・宮古市役所・副市長の表敬訪問
- ・宮古市鉾が崎地区の訪問
- ・盛岡市・岩手県父母教育懇談会
- ・大船渡市役所・教育委員会訪問



2012年度

「東日本大震災に関する研究推進プログラム」採択結果

2011年度に引き続き、今年度も東日本大震災の被災地の復興支援、災害時の被害軽減などをテーマとしたプロジェクト研究、被災した大学・研究機関との共同研究プロジェクト等の研究活動をサポートする「東日本大震災に関する研究推進プログラム」の募集を実施しました。総数55件の申請が寄せられ、審査の結果、52件(人文社会科学系31件/自然科学系21件、継続申請24件/新規申請28件)が採択されました。以下に、採択されたプログラムのうち、新規採択分をご紹介します。

研究代表者	研究課題
石倉康次	東日本大震災の被災と復興過程で福祉労働者の果たした役割と災害マニュアルに関する研究
大窪健之	震災後に観光客を支えた民間による「観光防災」活動の実態調査
河原典史	被災港への譲与漁船にみる漁業復興への支援をめぐる地理学的研究
久保壽彦	震災復興と危機管理 - 福島から - (副題: 震災復興に伴う企業再生と反社会的勢力排除)
小池洋一	経済復興と産業・雇用の創造 - 気仙地区を中心に
斎藤浩	震災特区制度の研究
サトウタツヤ	流言研究と文化心理学理論に基づく風評被害の実態と理論化 - 風評被害低減策の可能性 -
塩崎賢明	大震災の住宅復興のあり方に関する研究 - 阪神淡路大震災の検証を踏まえて -
島川博光	写真クラウドを用いた傾聴ボランティアの促進によるボランティア活動の普遍化
鈴木佑治	東日本大震災復興支援英語プログラム: 「プロジェクト発信型英語プログラム」のライフログ・モデルの実践
鈴木祥之	被災伝統構法木造建築物の補修・耐震補強の技法・技術の開発と復興支援
瀬戸寿一	参加型地図作成活動による復興まちづくりの支援手法の構築

研究代表者	研究課題
蘇宣銘	Optimize distributed renewable mix for climate change mitigation options in post-Fukushima Japan
孫京美	東日本大震災の復旧・復興の行政施策の執行と今後に向けての計画行政
高橋学	土地の履歴に基づいた地震災害予測と避難経路・避難場所の安全性の検討
谷晋二	東日本大震災の復興支援と対人援助学の創造
田畑泉	成長期のこどもの運動・食習慣と健康状況に関する研究
土井一生	大地震発生に先行した極微小な前震の発生パターンの把握
中村彰憲	GPS機能を用いた地域振興型メディアの開発とその効果に関する実証型研究
東照二	住民のエンパワーメントに向けた公的言語: 震災とリーダーシップ
日高勝之	喪と恢復 - 東日本大震災後のメディアの「物語」構築 -
細井浩一	ホワイトスペース特区を活用したエリアワンセグ放送による「キャンパス・地域連携型防災メディア」の可能性についての実証研究
堀口徹	宮城県石巻市雄勝地区における復興住宅計画に向けた景観ガイドライン策定: 文化的地域遺産伝子再生計画
宗本晋作	地域コミュニティの復興を目指す簡易集会所の活用に関する研究 -宮古市のサロン活動を対象として-
持田泰秀	東日本大震災の震災復興仮設住宅における屋上緑化活動の有効性と将来性に関する調査研究
安井健悟	震災が人的資本形成、幸福度、選好パラメーターに与える長期的な影響について
山崎雅人	多地域動学応用一般均衡モデルを用いた原子力発電の段階的廃止シナリオの定量評価
李周浩	地上から打ち上げたカメラセンサによる災害地域の広範囲3次元地図生成

昨年からの継続のプログラムにつきましてはHPをご覧ください。尚、それぞれのプログラムの進捗状況については新しい情報が届き次第HP等でお知らせする予定です。

これからの主な取り組み

夏期休暇中のボランティアバス派遣の募集・実施について

8月から9月の夏期休暇中、災害復興支援室が企画する「後方支援スタッフ派遣」の他、学生たちが復興支援の現場に関り、学ぶことのできる機会づくりに取り組んでいきます。詳細は確定次第、HPに公開の上、順次エントリー受付を行います。

国際平和ミュージアム2階ミニ企画展示「わたしたちができること」

震災後の1年を振り返る学生企画の展示。4/20から3期にわたり、3団体が入れかわり展示を行っています。<第3期> 6/23(土) ~ 7/15(日) 主催団体: NPO法人国際ボランティア学生協会IVUSA 「被災者×ボランティア?いいえ、宮城のおっちゃんおばちゃんども×京都の学生」

国際平和ミュージアム 開設20周年記念「放射能と人類の未来」中野記念ホール

放射能を「知る」・放射線を「防ぐ」・放射能を「教える」という視点から、放射能や被ばくについての基礎知識、原子力の利用や原子力発電所をめぐる歴史を展示。5/15(火) ~ 7/27(金) <それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

【募集】教職員を主体とした

災害復興支援活動へのサポートプログラム

災害復興支援室では、昨年度の「東日本大震災 復興のための『私たちの提案』」の成果を踏まえ、2012年度における立命館大学、APU、附属校の専任教職員を主体とした災害復興支援活動を、経費面でサポートする提案応募型のプログラムを募集します。災害復興に関わる活動を企画応募して頂き、応募内容を踏まえて災害復興支援室が選考し、経費総額の半額まで(最大50万円)を支援します。

応募につきましては、要項をよくお読みいただき、企画書をご提出下さい。

(要項・企画書はHPよりダウンロードできます)

- 応募資格:
- ・企画代表者が立命館学園専任教職員であること。
 - ・企画代表者が専任教職員であれば学生・生徒・児童の参加も認める。
 - ・個人の取り組みではなく、複数の人間が関わる活動であること。

応募方式: 以下の二方式から選択し、指定企画書フォームに記入の上、応募下さい。

1. 現地連携型
(立命館がこれまで災害復興支援に関わって連携を深めてきた岩手県大船渡市、宮古市、遠野市における活動の企画)
2. 自主企画型
(上記三市を活動先として指定しない企画)

応募期間:
第1次締切 2012年6月29日(金) 17:00
第2次締切 2012年10月26日(金) 17:00

審査: 「企画書」に基づき東日本大震災特別検討プロジェクト・災害復興支援室にて書類審査を実施。

審査結果発表:
第1次 2012年7月20日(金)
第2次 2012年11月16日(金)
企画書送付先: 災害復興支援室
(担当: 米倉 内線 510-2088)

編集後記

後方支援スタッフ派遣の参加者が今回の第9便で100名を越えました。毎回の募集もエントリー公開後あっという間に定員に達するほど。少しずつかもしませんが、この取り組みの拡がりがかがえます。ひとりでも多くの学生が参加できるよう、支援室では引き続き取り組みを検討中です。最新の情報はHP、facebook等で発信していきますのでぜひチェックして下さい。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第10号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室
TEL 075-813-8130 (総合企画課内)
メール 311fukko@st.ritsumeai.ac.jp
HP http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/